

# かさおか

発行所  
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)  
電話 66-1311



柿 竹本 久子 作 (ちぎり絵)

をやの思いをにをいかけ、

<sup>うちうち</sup>  
内治に心を配り おたすけに誠の心を尽くそう

1. 一歩前進 百万軒
2. おつとめの徹底とひのきしん
3. 機を逃さず おさづけの取次

## 第二回 学生の集い

九月二十三日(祝)、笠岡大教会では「第二回 学生の集い」が開催されました。



人が参加しました。

八名のうち五名が今年の学生生徒修養会・高校の部経験者で、既知の間柄ということもあってか、終始なごやかで、二つに分かれたグループには青年会から学生生徒修養会・高校の部のカウンセラー経験者がつき、グループワークのプログラムを進めていきました。

昼食は中庭で青年会と女子青年が協力してつくった「おにぎり」「焼きそば」「焼き鳥」「唐揚げ」「フライドポテト」「ジュース」などを大教会長様と一緒にいただきました。



和やかに話を聞き入る受講者達

これは昨年から始まり、学生担当委員

会が主催し、青年会と女子青年の協力のもと成り立っている中学三年生以上を対象とした行事で、学生八名を含む二十七

参加した学生達一様に喜んでいただけました。今後の課題としましては、如何にたくさん

の学生さんに参加してもらおうかということ。教会の先生方には、道の後継者育成の上に、本部・直属・教区での学生会の行事を是非こ



### にをいがけ・おたすけ実修会を通して

福成布教所 藤井道博

今年の三月、にをいがけ・おたすけ実修会要員研修会に参加させて頂きました。私は出向させて頂くのは、二人一組のペアだと思いついていました。まさか一人で出向させて頂く事になるとは思っておらず、経験も無い勉強不足の私に「おかささげ」について、話しなど出来るのだろうか、不安でいっぱいでした。そんなある日、青年会布教推進週間で、新見に行かせて頂く事に成りました。周りには山に囲まれた小さな集落で、会員一同、神名流しとパンフレットの配布をさせて頂いておりましたところ、庭先で両膝を神経痛で病んでおられる御婆さんに出会いました。さっそく神様の御話しをさせて頂き、おさづけの御取り次ぎをさせて頂く事に成ったのですが、

活用いただきたいと思えます。

(本部おせちひのきしん：一月四日から七日)  
(春の学生おどろがえり・・・三月二十八日)  
学生担当委員会 吉岡 誠一郎

申し訳け無い事に、家族以外の方に、おさづけの御取り次ぎをさせて頂くのは久しぶりの事で、初めておさづけを取り次がせて頂く事に緊張しました。程良く張り詰めた空気の中、何をどう話したのか良く覚えておりません。とにかく必死で神様に御願いをさせて頂き、なんとか無事に御取り次ぎをさせて頂く事が出来ました。思えば、初めておさづけの御取り次ぎの時も、今回と同様に、無我夢中であつたと思います。お陰様で、忘れていた何かを思い出した時の様に、さすがに気が持ち直成れました。そして、胸に支えていたものが取れ、出向させて頂く事が出来たと思います。

私が行かせて頂いた笠尋分教会では、午前中約二時間、教会周辺の戸別訪問に行かせて頂き、昼食を挿んで午後より、「おかささげ」についてお話しをさせて頂きました。聞き取りにくい話しに、真剣に耳を傾けて下さり、中には、メモを取って下さる方もいらっしゃいました。本当に有り難うございました。

私は、この実修会を通じて、初心を思い返す事が出来たと思えます。合掌。



▽今回の課題は「教」、撰六十句中、笠岡に繋がる教友の方二名、二句が見事撰ばれ掲載されていきましたので転載させて頂き

ます。  
おめでとうございます。

秀詠

人はみな

神の子守護を教えられ

東悠分教会長夫人 田林 美智子

準秀詠

ご諭達に

生きる道すじ教えられ

芳阪布教所長 杉原 幹夫

養徳社発行

『陽気』誌十月号、「道柳」より転載。

今回、読者の方より和歌のご投稿がありましたので、併せて紹介いたします。

幼<sup>おきな</sup>らの帰<sup>かえ</sup>りしあとの静<sup>しずか</sup>けさに

七草<sup>ななくさ</sup>粥<sup>がゆ</sup>に疲<sup>つか</sup>れ癒<sup>なご</sup>しぬ

手作りの 小さな雛<sup>ひな</sup>を手の平に

母と祝<sup>いわ</sup>いし 遠<sup>とほ</sup>き日想<sup>ひを</sup>う

花<sup>はな</sup>蘇<sup>ず</sup>芳<sup>おほ</sup> 老<sup>おきな</sup>女の紅<sup>べに</sup>さす 如<sup>ごと</sup>く見<sup>み</sup>ゆ

四季は豊<sup>ゆたか</sup>かに春<sup>はる</sup>はことさら

東悠分教会 田林 美智子作 (次号に続く)

更なる読者の皆様方の作品のご寄稿を、お待ち致しております。

## 〈 第 2 3 回 女 子 青 年 大 会 〉

日 時：平成15年11月3日(月) 午前10時  
場 所：本部中庭  
内 容：式典、おとどめ、支部のつどい、別席  
対 象：中学生～30才

## 〈 笠 岡 支 部 バ ス 団 参 〉

日 時：平成15年11月2日(日)・3日(月)  
集 合：11月2日(日) 7:00大教会 7:30出発  
内 容：ユニバーサルスタジオジャパン散策 女子青年大会参加  
参加御供：¥10,000 (全行事参加の場合)

第 2 便  
集 合：11月2日(日) 13:00大教会 13:30出発  
参加御供：¥ 5,000 (天理直行の場合)

第 3 便  
集 合：11月3日(月) 5:30大教会 6:00出発  
参加御供：¥ 5,000

# 談話室



## 母が遺してくれたもの

香地華分教会 渡邊美恵子

母が逝って十八年。懐かしさで母への憶いが次々にこみあげてきます。母は若い頃から体が弱かったのですが病院に行く事はありませんでした。病院に行くと二度と帰ってこないと思っていた様です。現に子宮ガンと薄々感じながら、トイレで大量の下血をして倒れ、最後に病院に運ばれたその時まで、母は家族に何年も病状を隠しておりました。医者に頼らない分、信仰は信念は強く、特に親への思いは真つすぐで、団参となると北九州からおぢばへ船で行くと楽に行けるが、皆で上級岡山の教会に行つて一緒に出るのが常でした。そんな母が支部の団参に一度出た事があり、京都観光中、トイレで下血した。とっさにバックの中の「御供」を探すが包み紙しかない。母はそれを丸のみこみして「親神様、教祖!!」必死にたすけを願ひ、下血はおさまった。何事も無い顔で無事おぢば帰り出来た。又、所属の教会の普請の時、いち早く私にお金を持

たせてひのきしんに出し、会長が支払いに頭を痛めていると聞くと、年金を担保に大きな借金をして普請のお供えをした。又、旅費がなくて月次祭に行けませんと連絡するが、祭典当日、旅費を工面して「会長さん、今から行きます。」そういう母でした。常々母は「私は親不孝のいんねんだから。」と言っていました。

親への思いは母の生い立ちにあります。生まれは福岡、炭坑の町、大地主の一人娘で、家は旅館と映画館と風呂屋を営んでいた。父はマントをひらひら闊歩し、女性の憧れの的。母三才の時、ちよつとした夫婦げんかで母親は実家に帰った。その間の事、父親が事故に遭い亡くなった。母親はもどらないまま他家へ嫁ぐ。三才で両親と別れ、祖父母に育てられた母は、十代で嫁がせられる。奥様として大事にされたが、相手が好きになれず一年もせず逃げ帰った。身ごもっていた。その後、母は女の子を連れて再婚。四男二女をもつて、一人娘で体の弱い母が八人の親になった。姑との仲、主人の遊び、家族をかかえて生きる為、一生懸命頑張った。

母が入信したのは私が生まれる前の話。会社の社宅に住んでいた頃。戦時中の配給時、我先にと皆が並ぶ中、いつも最後の残りクズをとられる奥さんがいた。大勢子どももいる。母は感心していた。母が三人目を身ごもって

「この子を産んだら貴女も子供も危ない」と言われた時、「大丈夫、神様にもたれて産みなさい。」と一軒隣のその奥さんに励まされ、奥さんの日頃の姿を見ていた母は「この人の言う通りにしよう。」と心に決めて産んだ。それから母は三人も産んでいる。奥さんは母に信仰の種を蒔いて戦時の悪化する中、故郷井原へ帰って行った。大恵山分教会の信者であった。母が親と思ひ慕った人である。母は私達に理の話をあまりしなかつたけれど、身をもつて教え遺してくれた信仰が何だったのか、今私わかるような気がします。

## 実践項目集計 (1月~8月まで)

百万軒をいかけ	484,572	軒 回 件 所
おきづけのお取次	34,683	
身上事情お頼ひ	5,760	
提出教会	119	

## 第 7 5 2 期 修 養 科 募 集 要 項

**\* 修養科期間**

立教166年12月1日～立教167年2月27日

**\* 教 養 掛**

3ヶ月間	中 村	剛	(大教会役員・久松分教会長)
1ヶ月目	奥	忠 郎	(府 鮮 分教会長)
2ヶ月目	西 村	彦 一	(瑞 雲 分教会長)
3ヶ月目	高 木	昭 祥	(湯田原分教会長)

**\* 募集要項**

- ・志願者は、12月末日現在で満17歳以上で、下表の必要書類を携え、上級教会を經由して大教会に順序参拝すること。
- ・11月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、3月1日の昼食後に解散。

**\* 教 科 書 (必須)**

『おふでさき』、『みかぐらうた』、『天理教教典』、『稿本天理教教祖伝』、『よふぼく手帳』。

**\* 参 考 書 (出来れば持参)**

『おてふり概要』、『なりもの練習譜』(笛・打楽器または三曲)、『おやしき・史跡案内』。

**\* 携 行 品**

おつとめの扇、筆記用具、認印、笛(男鳴物の講義で笛と小鼓の内、笛を選択する人のみ)。

**\* 服 装**

ハッピー及び帯・バンド、長ズボン(又は、それに類するもの)、靴。

書 類	大教会	詰所	備 考
「順序参拝票」	○	○	
「別 席 願」	○	○	・「初席願」の順序参拝がまだの者で、修養科入学後に初席を運ぶ者のみ。
「席 札」		○	
「別席のしおり」	○	○	・願書に日付を入れない事。
大教会 御供	○		・おさづけの理拝戴願の順序参拝も合せて行なう。
本 部 御供		○	・「別席の誓いの言葉」は別席の誓いの日までに覚えること。
「おさづけの理拝戴願」	○	○	・「おさづけの理拝戴願」の順序参拝がまだの者のみ。
「おはなし」	○		・願書に日付を入れない事。
大教会 御供	○		
本 部 御供		○	
「修養科入学願」		○	・御供は任意であるが、慣例により、200円以上。
「修養科入学事由書」		○	
修養科入学御供	○		
「住民票」または「戸籍抄本」		○	・「戸籍記載事項証明書」、「身分証明書」でもよい。

### 第三十一回 全教野球大会 組み合わせ決まる

去る七月十五日、笠岡ワトルドブラザーズは、予選決勝、岡山県代表をかけ岡山大教会チームと対戦する予定であったが、折からの長雨と、試合順延の日程がとれず、大会規約に基づき、あみだくじにて代表の座を懸けた。結果、今年は笠岡ワトルドブラザーズに幸運の女神は微笑んだ。チーム再結成以来六年、二年ぶり三度目の全国大会出場となる。

八月二十五日、監督会議、並びに抽選会が行われた。大会三十一回目を迎える今大会に我がチームは図らずも三十一番のくじを引き、見事選手宣誓を行う機会を与えられた。

気になる初戦は、激戦区奈良を勝ち抜いた南和分教会チームと今月二十八日午前八時三十分、白川球場Dグラウンドで対戦する。

我がチームは、全員野球をモットーに、野球を通して、用木誕生となった選手もいて、お互い信仰を深める場にもなっている。若干チームの高齢化は営めないが、広く参加者を募り、名実共に一列兄弟を目指すその輪に加わって頂きたい。また、今後、ソフトボール大会を企画し、親睦を広げていく方針である。青年会総会翌日が初戦。時間の許される方挙って応援の程御願致します。(次号に続く)

## 第31回 全教野球大会 組み合わせ表 (6球場)

【期 間】 立教166年10月28日(火)・29日(水)・30日(木)

【開会式】 10月28日 7時30分 於: 親里野球場

【閉会式】 10月30日 15時00分(予定) 於: 親里野球場

親 …………… 親里野球場  
A・B・C・D …… 白川球場  
E …………… 天中G

第1日目	第2日目	第3日目	第4日目	第5日目	第6日目	第7日目	第8日目	第9日目	第10日目	第11日目	第12日目	第13日目	第14日目	第15日目	第16日目	第17日目	第18日目	第19日目	第20日目	第21日目	第22日目	第23日目	第24日目	第25日目	第26日目	第27日目	第28日目	第29日目	第30日目	第31日目	第32日目	第33日目	第34日目	第35日目	第36日目	第37日目	第38日目	第39日目																				
1 親1 8:00	4 親4 13:30	3 親3 11:40	2 親2 9:50	5 A.1 8:30	8 A.4 14:00	7 A.3 12:10	11 B.3 12:10	12 B.4 14:00	10 B.2 10:20	9 B.1 8:30	15 C.4 15:00	14 C.2 10:20	13 C.1 8:30	19 D.3 12:10	20 D.4 14:00	18 D.2 10:20	22 E.2 10:50	23 E.3 12:40	21 E.1 9:50	1 (豊岡大教会)	2 (北海道教区)	3 (御津大教会)	4 (北洋大教会)	5 (香川大教会)	6 (當浦三課合同)	7 (淀分教会)	8 (明成分教会)	9 (塚地分教会)	10 (那美岐大教会)	11 (島原分教会)	12 (福井教区)	13 (富山教区)	14 (山名大教会)	15 (日野大教会)	16 (越乃國大教会)	17 (大分教区)	18 (愛知大教会)	19 (撫養大教会)	20 (千葉教区)	21 (石川教区)	22 (日方分教会)	23 (熊本大教会)	24 (東本大教会)	25 (埼玉教区)	26 (飾磨分教会)	27 (鹿兒島教区)	28 (岐美大教会)	29 (南和分教会)	30 (笠岡大教会)	31 (山口教区)	32 (泉東分教会)	33 (紀熊分教会)	34 (小南部分教会)	35 (西嶺分教会)	36 (愛媛分教会)	37 (愛媛分教会)	38 (神奈川教区)	39 (諏訪平分教会)
(兵庫)	(北海道)	(大阪)	(新潟)	(香川)	(おやさと)	(京都)	(山梨)	(高知)	(栃木)	(福井)	(長崎)	(富山)	(静岡)	(滋賀)	(大分)	(愛知)	(徳島)	(千葉)	(石川)	(和歌山)	(熊本)	(東京)	(埼玉)	(兵庫)	(兵庫)	(鹿兒島)	(奈良)	(岡山)	(山口)	(三重)	(青森)	(福岡)	(愛媛)	(神奈川)	(長野)																							

## — 特別ひのきしん五日隊 —

期 間; 11月1日(土)～5日(水)

割 当; 直1=5名、直2=5名、福山=5名、高屋=6名、  
島根=5名、上下・府中市=4名、  
計30名(人数が増えても差し支えありません)。  
\*ひのきしん終了後に修練の時間を検討中です。

参加御供; 3,000円。

〈今後の予定〉

立教167年1月27日～31日、  
4月1日～5日、  
6月11日～15日、  
8月11日～15日、  
立教168年2月11日～15日。



# 秋季靈祭祭文

これの笠岡大教会の祖靈殿にお鎮まり下さいます本席様の御靈初代真柱様並びに奥様の御靈二代真柱様の御靈中山家御先祖の御靈大教会創設の祖上原佐吉大人八重刀自の御靈初代会長上原さと刀自の御靈二代会長上原伊助大人光刀自の御靈三代會長上原繁雄大人くにゑ刀自の御靈四代会長上原郁雄大人の御靈大教会創設の頃より長の年月歴代会長と共にご苦労下さいました役員部内教会長教人よぶく信者の御靈諸々の御靈の前に會長上原理一慎んで申し上げます

御靈様方には親神様のお見定めと教祖のお引き寄せにより早くからこのたすけ一条の道をお通り下さいました道程は決して平坦なものではなくむしろ険しいものでした その険しい道を生涯通り切られたのは我身我家の因縁自覚はもとより後に続く子や孫末代に亘つてのたすかりを願つたからに他なりません 先の楽しみがあつたればこそ今の苦しみを乗り越えて通り切られました 今日この道の結構な姿がありますのもひとえに親神様教祖の御守護お導きの賜であることは申すべきもありませんが又一つには御靈様方が言うに言われん難苦勞の中も勇んでたすけ一条の真実を伏せ込んで下さつたお陰と朝夕に御礼申し上げつつ私共もその思いを受け日々たすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

その中にも本日は秋の靈祭を執り行う定めの日柄でございますので改めて御靈様方をお慕い申し御遺徳を称えたいと存じまして御前に旬々の物を供えて只今は参集うゆかりある人々と共におつとめ奉仕者一同勇んで親神様の御前にてをどりをつとめさせて頂きました 皆の真実の姿を御覧下さいまして御靈様方にもお勇み頂きたく存じます 今お道は教祖百二十年祭に向けて成人の歩みを進めている最中でございます 諭達第二号を受け実践項目を申し合せてたすけ一条の実動の上に勤め励まして頂いておりますが私共の実動以上に世上の心の荒廃が進んでいくように思えてなりません 年祭に向けての成人の旬我身我家の事に留まらず大きく世界にも目を向け身近なところからにいがけおたすけに邁進させて頂く所存でございます

御靈様方が通つて付けて下さつたこの道をより陽気ぐらしへ延ばそうと各々の真実を伏せ込む皆の誠の心をお受け取り下さいますと笠岡の道の弥栄えを御守護頂けますようお力添えの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます



“さて・さて・さて、さても一年、この一年心定めてお正月、三年千日念じつ、あつという間に秋が来て、心ならずも不動尊？申し訳なく御座候”  
なんて言葉が浮かぶ今日この頃。

世間では、連日米どろぼうのニュースが流れ、田舎町でも皆ビクビク！えらい世の中になつたものです。

道も世界も合図立て合い、と聞かせてもらいますがどうなのでしょう？

先月、妻と二人、天理教基礎講座を受講させてもらいました。ビデオ、お話し共、感動でした。F先生は、ほとんど視力が無い中、毎日感謝と感激の気持ちでお通りになつておられるとの事、その心が素直に感じられ、やはり、原点（かしももの・かりもの理）に立ち返る事の大切さを実感しました。

間もなく三年千日、中の年に突入します。何はともあれ、子供達の時代に勇んで通れる様なお道であつてほしいとの願いを込めて、精一杯、陽気に頑張りましょう。